

地域中核大学イノベーション創出環境強化事業 令和6年度採択校フォローアップ審査調査書

法人名：国立大学法人秋田大学 大学名：秋田大学

(1) 事業初年度から現時点までの取組とその効果

(交付済のうち執行済の交付金における取組について)

- ① 既に行った取り組みに対して、地域の中核大学として、自身の強みや特色が、本事業初年度でどのように進展したと自己分析しているか。羅針盤を用いて、採択前後の強みや特色がどのように変わったかを示すこと。また、特に進展が見られた観点については、具体的なアウトカム指標を用いて、過去6年分の定量値とともにその効果を示すこと。

秋田大学（地域中核大学）は、本事業により研究拠点形成・産業創出・人材育成を軸とした取組を展開してきた。具体的には、①電動化システム技術に関する研究リソース・社会実装・国際ネットワークの強化、②スタートアップ創出のための支援体制整備、③地域DX・GX人材育成プラットフォームの構築、④共同利用機器整備、URA組織整備という4つを連動させる体制を整備している（図1）。

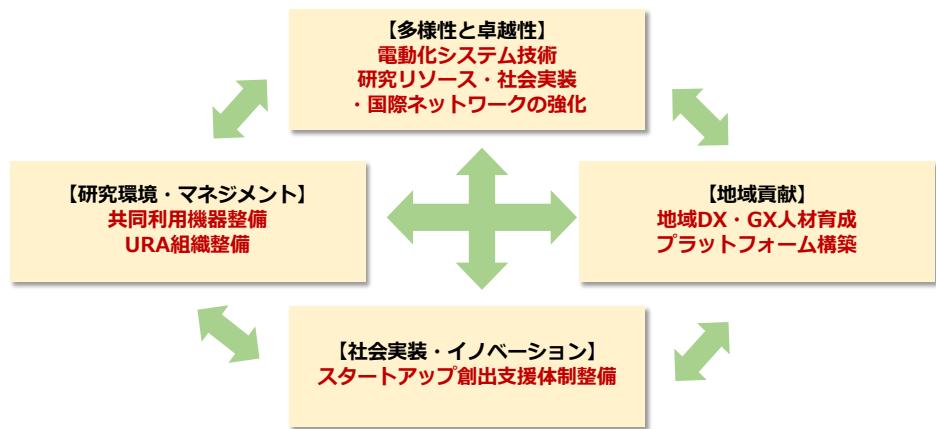


図1「地域中核大学の産業・人材創出拠点」循環図

羅針盤 観点	主な取組内容	金額 (千円)	主な効果 (概要)
多様性と卓越性	電動化評価ラボ（種平ラボ）の機能強化	43,000	国際共同研究・企業実証の拡大と論文成果の向上
社会実装・ イノベーション	スタートアップ評価・伴走支援体制整備、成果の事業化準備	6,140	ベンチャー創出と産学連携の拡大
地域貢献	秋田リカレント教育プラットフォーム（AREP）立上げ準備	1,600	連携体制構築とリカレント講座展開基盤の形成
研究環境、 マネジメント	SEM・ICP導入による共同機器利用促進、URA組織整備	24,260	横断利用促進と外部共同研究の拡大、研究支援体制拡充
合計		75,000	

【1. 多様性と卓越性（43,000千円）】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7 末：2.5→3.0→3.1→3.5]
新世代モーター特性評価ラボ（種平ラボ）の試験設備を強化（モーターベンチT溝定盤の製作・据付、センサレス制御モーター試験対応、マルチインバータソフト改修等）。今後、国内外の企業・研究機関に開放された電動化試験拠点として一層活用されるような基盤を整備。

Top10%論文数は21件→60件、うち国際共著論文数は12件→33件へ増加（表1）。種平ラボ試験設備を利用する外部企業も増加し、外部資金獲得に直結している。さらに、本事業によって強化された試験環境はオーストラリアの水素電動航空機メーカーである **Stralis Aircraft** 社から

も高く評価され、令和7年には電動航空機分野での共同研究・実証に向けたLOI（連携協力に関する意向表明書）を締結。国際共同研究開発と地域発技術の社会実装加速に繋がる。



【国内最大級のモーター試験装置（左）】【航空機実寸大配線の電力網設備（中）】【Stralis社とのLOI締結（右）】

【2. 社会実装・イノベーション（6,140千円）】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7 末：3.0→3.5→3.6→4.0]

スタートアップ創出を核に、社会実装機能を強化。産業界出身のURAを配置し、技術評価スキームと伴走支援体制を整備した。

電動化システム技術分野では、本事業によって強化された種平ラボの試験環境と評価技術を活用し、設備オペレーション・評価試験・その他評価試験に関するトータルマネジメントを実施する**スタートアップ企業を2026年1月に設立予定**。既に経営人材を確保し、事業計画を策定中。これまで大学研究者が担ってきた研究設備のオペレーションや外部からの評価試験受託等をスタートアップ企業が実施することにより、研究者が研究に専念できる環境と、地域企業と連携した長期的に持続可能な種平ラボ運営の両立を構築する。

また、**R7年度には大学発ベンチャー2件**（医学部関連の受託実験事業および大学業務サポート運営会社）を新規設立した。

研究シーズ掲載件数は38件から151件へ、特許出願は19件から47件へ増加（表1）。これらの取組により、新たな产学連携・事業化案件が創出され、持続的イノベーション基盤を確立。

【3. 地域貢献（1,600千円）】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7 末：3.5→4.0→4.1→4.5]

地域DX・GX人材育成の中核として**「秋田リカレント教育プラットフォーム（AREP）」を構築**開始。講座情報を集約・発信するポータルサイト設計、教育機関・自治体・企業との連携体制を整備し、初年度から**22機関が参加表明**。

文部科学省「令和6年度補正予算事業 リカレント教育エコシステム構築支援事業」（34百万円）を獲得、事業継続に必要な財源基盤を確保した。大学資源と地域ニーズを常時接続するマッチング基盤を形成し、R7年度から年間120名受講を目標に恒常展開が可能な体制を整えた。

【4. 研究環境（24,260千円）】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7 末：2.5→3.0→3.1→3.5]

【5. マネジメント】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7 末：3.0→3.5→4.0→4.0]

共用研究基盤を高度化。共同機器利用センターに走査電子顕微鏡(SEM)と誘導結合プラズマ発光分光装置(ICP)を導入し、環境材料の詳細解析や資源リサイクル技術の研究基盤を拡充。

電動化技術や資源・材料分野の試料分析・性能評価が迅速化し、重点研究ラボや外部共同研究との連携で成果創出サイクルが加速。

科研費新規採択件数は78件（R5）→95件（R6）へ増加し、外部共同研究件数や研究成果指標（表1）も向上。外部資金獲得力強化に直結した。

また、全学横断組織「教育・研究・経営戦略室」を核として、令和11年度までにURA20名体制（現行6名）を目指すAkita URA Headquarters (AUH)の制度設計を推進。博士課程からURAへのキャリアパスや、研究科担当URAから専門・統括URAへ発展可能なキャリアパスと研修体系を策定し、自大学内でURAを育成できる制度を構築している。

② 上記に加えて、人材育成や教育など、既存の羅針盤の観点以外で進展が見られたものについても記述すること。

令和7年度、本学は**未来研究統括機構と地域共創機構を新設**し、県の産業・社会課題に直結した**重点研究ラボ**（5件、各500万円×3年間）を始動。電動化、資源循環、AI、医理工連携など、重点領域で若手教員が分野横断型研究に参画し、研究エフォート最大80%確保する制度を構築。その成果を地域社会や大学院教育へ循環させる仕組みも整備している。

(表1) 資金投入の効果

(単位：千円／件)

年度	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7・8月 実績	R7末 見込
Top10%論文数	31	30	33	30	21	60	-	-
↳国際共著	9	14	10	15	12	33	-	-
外部資金 獲得総額	852,193	803,924	830,893	845,013	945,112	872,560	354,693	954,463
↳共同研究	111,282	127,930	159,827	194,068	173,717	149,670	97,473	169,485
↳受託研究	311,814	303,545	319,673	295,544	418,092	385,824	80,195	427,414
↳寄附金	429,097	372,449	351,393	355,401	353,303	337,066	177,025	357,564
外部資金 獲得 (件)	968	917	845	846	836	821	392	820
↳共同研究	107	103	98	110	115	118	77	117
↳受託研究	128	124	144	143	154	152	43	150
↳寄附金	733	690	603	593	567	551	272	553
研究シーズ掲載 (件)	-	-	38	86	121	150	151	160
特許出願数	33	25	19	25	27	47	-	-
科研費新規採択 (件)	96	96	76	80	78	95	107	-

(2) 事業初年度から現時点での取組とその効果

(交付済のうち未執行の交付金における取組について)

- ① これまでの未執行分の交付分に対して、どのような取組を実施し、それにより地域の中核大学としての自身の強みや特色が、どのように進展できると見込んでいるか。羅針盤を用いて、強みや特色がどのように変わると示すこと。また、特に進展を見込んでいる観点については、具体的なアウトカム指標を用いてその期待される効果をできるだけ具体的に示すこと。

羅針盤観点	主な取組内容	金額 (千円)	主な効果 (概要)
多様性と卓越性	種平ラボ改修とスタートアップ用施設整備、国際ワークショッピング開催	42,000	起業支援、海外トップレベル研究機関や研究者とのネットワーク強化、国際共同研究加速
社会実装・イノベーション	起業支援施設・機器導入、研究交流促進	31,000	再エネ・資源循環分野の技術開発と社会実装を一体的に推進
研究環境、マネジメント	共用機器更新・修繕 (ICP等)	12,000	高精度分析対応力を向上させ、利用拡大と研究効率化を実現
合計		85,000	

【1. 多様性と卓越性 (42,000千円)】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7末: 2.5→3.0→3.1→3.5]

種平ラボ 2Fを改修し、オフィス・会議室・オープンラウンジ・個室ブース・仮眠室等を兼ね備えた、外部利用者が利用可能なワークスペースを整備する（什器等を含めて約 28,000千円）。設立予定のスタートアップ企業にその一部を貸与予定であり、起業支援と試験環境強化の両立を実現する。さらに技術職員等の専門人材を配置し（約 11,000千円）、オペレーター認定制度（後述②）に基づく教育訓練体制を構築する。

また、海外トップレベルの研究機関や研究者とのネットワーク強化を目的に、**国際ワークショッピング「ICMR2025」を秋田市で開催**（旅費等：約 3,000千円）。ノッティンガム大学やフランホーファー研究機構との国際セッションを共催し、最新技術・動向を共有。国内外主要機関

(JAXA、IHI 等)との協働により、本学の研究テーマの国際的認知度を向上させ、次年度以降の国際共同研究や産業界との海外展開に直結する持続的連携基盤を形成する。

【2. 社会実装・イノベーション (31,000 千円)】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7 末 : 3.0→3.5→3.6→4.0]

大学発スタートアップ支援基盤の確立に向け、起業相談や企業連携の拠点となるオフィス・会議スペースを整備（施設改修費：約 15,000 千円）し、ネットワーク環境や什器を充実。

共用評価・分析機器を導入（備品費：約 5,000 千円）して事業化準備を支援し、運営支援費（約 5,000 千円）で安定運営を確保。

また、グリーン社会関連研究支援費（約 6,000 千円）で再エネ・資源循環分野の国内外研究交流を推進し、事業化と国際展開を加速する。

【3. 研究環境 (12,000 千円)】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7 末 : 2.5→3.0→3.1→3.5]

【4. マネジメント】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7 末 : 3.0→3.5→4.0→4.0]

共用機器の安定運用と利用拡大のため、主要機器の更新・修繕を集中実施。特に需要の高いイオンクロマトグラフ（約 10,000 千円）を更新し、高精度・多検体分析への対応力を向上。有機微量元素分析装置（約 2,000 千円）の修繕で安定稼働を確保。

冷却系・電源・空調制御を含むインフラの信頼性向上により、計測待機時間を短縮し、共同利用件数・分析精度を同時に向上。学内外共同研究や外部資金獲得の加速を見込む。

② 上記に加えて、人材育成や教育など、既存の羅針盤の観点以外で進展が見られたものについても記述すること。

「秋田大学電動化システム共同研究センター新世代モーター特性評価ラボ機器設備オペレーター認定要項」を定め（令和 7 年）、県内中小企業の若手技術者に対してトレーニングプログラムを実施し、所定のプログラムを修了した者を種平ラボ機器設備のオペレーターに認定する制度を整備した。設立予定のスタートアップ企業の活動と連携することで、評価試験受託から試験結果・評価レポートの提出までを担う技術者の育成に地域全体として取り組む基盤を構築した。

(3) 令和 7 年 12 月交付による取り組み計画と見込まれる効果

① 今回（令和 7 年 12 月）の交付により、どのような取組を実施し、それにより地域の中核大学としての自身の強みや特色が、どのように進展できると見込んでいるか。羅針盤を用いて、強みや特色がどのように変わると示すこと。また、特に進展を見込んでいる観点については、具体的なアウトカム指標を用いてその期待される効果をできるだけ具体的に示すこと。※支援規模は、令和 7 年度 7 月交付分と合わせて年間 1 億円程度を想定すること。

羅針盤観点	主な取組内容	金額 (千円)	主な効果（概要）
多様性と卓越性	種平ラボ改修、スタートアップとの連携	6,000	試験環境強化、評価受託数増加
社会実装・イノベーション	事業化支援・国際連携体制の拡充（備品更新、人件費、修繕費等）	29,000	研究支援と社会実装を一体化し、多層的な共創活動を可能にする基盤を確立
地域貢献	AREP ポータルサイトの再構築	2,000	講座情報・相談機能を一元化し、受講者数拡大と人材育成基盤を強化
研究環境、マネジメント	共用機器の修繕・更新（SEM、ICP、XPS 等）	3,000	稼働率を向上させ、待機時間を短縮、外部共同利用を増加
合計		40,000	

【1. 多様性と卓越性 (6,000 千円)】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7 末 : 2.5→3.0→3.1→3.5]

種平ラボ 2F を引き続き改修し（4,000 千円）、整備中のワークスペースにセキュリティを設置して機密保持体制を構築するとともに、空調設備設置や屋根の修繕による高温・豪雨対策を実施し、安心・安全な試験環境の提供を行う。また、設立したスタートアップと連携し、試験エリ

アの再設計や設備レイアウト最適化を行うとともに、国内外への広報活動を実施し（2,000千円）、評価受託数の増加を狙う。

上記取組により、目標としていた電動化システム技術に関する研究リソース・社会実装・国際ネットワークの強化が完遂となり、外部資金獲得額の拡大、国際共同研究の深化が加速し、卓越性と多様性の向上が見込まれる。

【2. 社会実装・イノベーション（29,000千円）】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7末：3.0→3.5→3.6→4.0]

産学官共創の中核拠点として、持続的な事業化支援と国際連携体制を拡充する。備品更新（13,000千円）により、評価支援エリア、打合せスペース、事業化相談室の什器・ICT環境を刷新。維持管理費（6,000千円）で光熱水費等を確保し、支援員やURAの安定的活動を保証する。人件費（5,000千円）で**国際連携URAを配置**し、英語による契約・調整業務に対応。さらに修繕費（5,000千円）でURA活動スペースを整備し、支援業務の質を高める。

これにより、研究支援と社会実装支援を一体化した人材・空間基盤が確立され、地域から国際まで多層的な共創活動が可能となる。

【3. 地域貢献（2,000千円）】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7末：3.5→4.0→4.1→4.5]

秋田リカレント教育プラットフォーム（AREP）の情報発信機能を強化し、社会人の学び直しを促進する。システム改修費（2,000千円）で、講座情報・相談窓口・支援制度等を一元化したポータルサイトを強化し、検索性・スマートフォン対応を改善。

これにより、利用者アクセス数と受講者数の拡大、潜在的ニーズの掘り起こし、地域人材育成基盤の強化が期待される。

【4. 研究環境（3,000千円）】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7末：2.5→3.0→3.1→3.5]

【5. マネジメント】 [羅針盤 R5→R6→R7 中→R7末：3.0→3.5→4.0→4.0]

共用機器の安定稼働と継続利用を支える保守・修繕体制を強化する。修繕費（3,000千円）でSEM・ICP等に加え、X線光電子分光分析装置を修理。冷却・電源設備更新、操作端末交換、温湿度環境安定化対策を実施。

これにより、稼働率向上、計測待機時間短縮、外部共同利用件数増加が見込まれる。

② 上記に加えて、人材育成や教育など、既存の羅針盤の観点以外で進展が見られたものについても記述すること。

今後は共創活動拠点を核に研究者・学生・URA・企業人材が交流し、産学連携や起業現場での実践機会を拡大。令和7年度着任予定の国際連携URAが海外機関との調整を担い、グローバルに通用する研究マネジメント人材を育成する。さらに重点研究ラボ成果や電動化・資源循環分野の知見を活用し、秋田リカレント教育プラットフォーム（AREP）の講座を拡充。大学成果を地域の学び直し機会へ展開し、産業変革と人材育成の好循環を加速させる。



【電動化分野を中心とした研究開発と大学発スタートアップ創出を両輪として推進。研究推進・人材育成・地域連携を一体化し、秋田発の知と人材が持続的に活躍する全国モデルを確立。】